

【庄原市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために、ICTの活用は必要不可欠であると示されており、各学校に整備したICT環境をどのように有効活用していくかが重要となっている。

本市においても、1人1台端末やICT機器を活用した基本的な学習の定着、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という観点から学習活動の充実を図り、ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。そのため、教職員のICT活用指導力の向上を目指しICT活用に関する研修を充実するとともに、授業におけるICTの効果的な活用を研究・実践していく。

2. GIGA第1期の総括

第1期においては、市内全ての小中学校に1人1台端末を配備し、通信ネットワークを整備してきた。各学校においては、まずは教職員が授業において活用する場面を検討し部分的に取り入れていくという視点で「使ってみる」活用を進めてきた。授業ではGoogle Classroomを活用し、課題の配付、アンケートの実施、共同編集ソフトを用いた学習などを取り入れてきたため、端末の活用や操作については一定の効果が見られる。また、市全体で「ICTBook」（ICT機器を用いた活用事例集）を作成し、市内の学校における活用状況や効果的な活用方法について交流を行った。第1期後期では、校務におけるICT端末の活用にも視点をあて、授業のみならず日々の業務の中でICT機器やクラウドを用いることを推進した。

第2期における課題は、1人1台端末やICT機器の活用方法を精選し、子供たちの学びにより効果的な活用の仕方を検討し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた学びのさらなる充実を図ることである。また、スクリーンタイムの増加やデジタル依存、個人情報の取り扱いや著作権などの情報モラルを含めたデジタル・シティズンシップ（デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力）のさらなる育成が求められる。

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、1人1台端末を活用し、児童生徒同士や地域の人々も含めた多様な他者と協働する学習に取り組んでいく。また、第1期では実施できなかった、タッチペンを活用した授業改善やデジタ

ル・シティズンシップ教育の充実を目指し、学年の実態に応じた指導のみならず、保護者を巻き込んだ家庭における指導も行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用方策として、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、引き続き1人1台端末環境を継続しつつ、端末の利活用そのものを目的とすることなく、授業等での適切かつ効果的な活用と児童生徒の主体的な活用を経て、未来の社会で生きていくために必要な資質・能力の育成を目指す。

【1人1台端末の積極的活用】

校務DXと並行して推進することで、教職員のICT活用スキルを高め、授業で積極的に活用できるようにする。市教育委員会主催の情報教育研修会において、活用事例の共有や教材等の共有、授業研究会の充実を図り、教員や児童生徒がデジタル教科書等を実践的に活用できるようにする。また、デジタル・シティズンシップについても研修で取り上げ、デジタル技術を用いて社会に参加するために必要な他者の尊重・相互理解の精神と、安全で責任ある行動や倫理についても指導していく。

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、ICT端末を日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し新たな学習方法を見いだしたり、学び直しや発展的な学習を行いやすくしたりする。一人一台端末を道具として用いることで、多様な教材を活用し、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びが生み出されるような授業改善を進めていく。

【学びの保障】

1人1台端末の家庭への日常的な持ち帰りや家庭学習での使用を進め、通常学級の児童生徒の学びの充実のみならず、不登校の児童生徒、特別な支援を要する児童生徒に対して、学習支援ツール等を活用することで学びの場を提供し、学習機会を確保していく。